

■尾上柴舟 歌人・国文学者・書家。古典的作風で(明星)と対立し、「短歌滅亡私論」が大反響。気品高い草仮名の名手。

おのえさいしゅう

三つの内乱・1876＝ 岡山県苫田郡津山町で、元津山藩士北郷直衛の三男に生まれる。

のち、同藩士尾上家の養子となる。本名は尾上八郎。

明治14年政変1881＝ 5歳：

内閣発足・・・1885＝ 9歳：

津山小学校高等科を卒業の後、養父の転勤で兵庫県龍野に移住。

帝国憲法発布1889＝13歳：

東京府尋常中学を経て、

一高時代に落合直文に師事し、

日清戦争始・1894＝18歳：

日清戦争終・1895＝19歳：東京帝国大学文科大学を卒業。落合直文の{あさ香社}に加わり、

以後、哲学館講師、東京女子高等師範学校講師・教授、早稲田大学高等師範部教授などを歴任しながら、

田中正造直訴1901＝25歳：東京帝大国文科を卒業。訳詩集「ハイネの詩」刊行、

教科書疑獄・1902＝26歳：金子薫園と結んで「叙景詩」を刊行し、明星の浪漫主義に対抗して、叙景詩運動を推進、

日比谷公園・1903＝27歳：

日露戦争始・1904＝28歳：歌集「銀鈴」「金帆」、

日露戦争終・1905＝29歳：\*{車前草社}を結成。結成に参加した若山牧水、前田夕暮らが育っていく。

韓国反日暴動1907＝31歳：歌集「静夜」をへて、

アヲキ創刊・1908＝32歳：女子学習院教授に就任。

伊藤博文暗殺1909＝33歳：歌集「永日」で自然主義的傾向を見せる。

韓国併合・・・1910＝34歳：\*{創作}に「短歌滅亡私論」を発表し、歌壇の大きな反響を呼ぶ。

書は大口周魚(鯛二)に師事。俗気の多い御家流を革新し、

明治天皇没・1912＝36歳：

大正政変・・・1913＝37歳：\*「日記の端より」で、温雅な古典的作風を完成。書でも「万年筆新書翰」皮切りに、気品の高い草仮名の名手として知られるようになる。

第一次大戦始1914＝38歳：歌集「白き路」。{水麴}を創刊し、没年までこれを主宰する。

21ヶ条要求・1915＝39歳：歌集「遠樹」、歌論「短歌新講」刊行。

民本主義・・・1916＝40歳：歌論「短歌髓脳」刊行。

ロシア革命・1917＝41歳：書「柴舟かな帖」、

ベルリン条約・1919＝43歳：歌集「空の色」、

原敬首相暗殺1921＝45歳：

関東大震災・1923＝47歳：文学博士。

治安維持法・1925＝49歳：歌集「朝ぐもり」、歌と書の間を論じた「歌と草仮名」や、

日本時代始・1926＝50歳：校注「古本古今和歌集」。『平安朝時代の草仮名の研究』など、書道関係の著述も多い。

世界恐慌・・・1929＝53歳：歌集「み光のもとにて」、

海軍軍縮条約1930＝54歳：歌集「間歩集」、随筆「行きつゝ歌ひつゝ」。以後2年、「日本名筆全集」全14巻を編集。

満州事変・・・1931＝55歳：「書道講座 和様概説、調和体の研究」、

五一五事件・1932＝56歳：「書道講座 調和体朗詠抄」

国際連盟脱退1933＝57歳：書「調和体春秋帖」「調和体風月帖」「ふちなみ帖」、

帝人疑獄事件1934＝58歳：書「秋野帖」、

二二六事件・1936＝60歳：「素月集」、書「水かけ」、自選歌集「細風抄」、

日中戦争始・1937＝61歳：書「高野切 第2種」。書家として帝国芸術院会員になる。

健保+総動員 1938＝62歳：「歴代歌人研究 第4巻 紀貫之」

第二次大戦始1939＝63歳：

大政翼賛会・1940＝64歳：「新選尾上柴舟集」、

日米開戦・・・1941＝65歳：書「友鏡」、

・・・・・・1942＝66歳：歌集「芳塵」、

創価学会検挙1943＝67歳：書「きぬがさ帖」「調和体山水帖」、

年金+総武装 1944＝68歳：以降4年かけて「快心編 天花才子」翻訳。

敗戦・・・・・・1945＝69歳：日本書道美術院を結成して、会長となり、

新憲法公布・1946＝70歳：東京女高師を退官し、名誉教授、

極東裁判決・1948＝72歳：翻訳「後西遊記」、古今和歌集、

三大事件・・・1949＝73歳：「芭蕉夜話」。歌会始選者。

独立回復・・・1951＝75歳：

TV放送始・・・1953＝77歳：書「文化帖」、

55年体制始・1955＝79歳：書「婦人手紙十二ヶ月」、

なべ底不況・1957＝81歳：没した。

日本画家の川合玉堂との親交が厚く、玉堂が描いた画に柴舟が書をした書画の作品が多く見られる。